

【SEAJ 事務局】

SEMICON Korea 2026 出張報告

セミコンショー会期：2026年2月11日(水)～13日(金)

出張先：韓国ソウル・COEX

昨年のセミコン韓国滞在時の気温は -7°C ～ $+2^{\circ}\text{C}$ だったので、今年もかなりの冷え込みを覚悟していたが、今回は -1°C ～ $+9^{\circ}\text{C}$ と訪韓前週の東京と変わらないほどであった。この時期のソウルとしては暖かい気候。

SEMICON Korea 2026のテーマは「Transform Tomorrow」

【SEMICON Korea Opening Keynote】

初日の午前～昼にかけて開会式とオープニング Keynote が行われた。

Keynote の順序は Samsung - ASE - Cadence - Lam Research - SK Hynix - NVIDIA であった。

OSAT Global No.1企業である台湾 ASE の Tien Wu CEO の講演順序が2番目と高位、さらに Cadence がそれに続くなど、前工程の微細化、高集積化のプロセス技術もさることながら、AI 半導体のためのパッケージングや、AI の力を借りた複雑な半導体設計の高速化が半導体製造の上で重要性を増していることが講演順序に現れていたように思う。

また6社とも HBM の供給や、半導体設計の AI 化、AI チップの増産などを通じて NVIDIA に関与していることも、

NVIDIA が中心となって現在の半導体ビジネスを牽引していると感じさせた。

6社講演の共通点は下記の点。

- AI は半導体に史上最大の需要をもたらす
- 前工程だけではなく“パッケージングとの統合”が主戦場になる
- チップレットと共同最適化が必須
- AI が設計・プロセス・工場運営すべてを自動化する
- 供給能力の再構築 (Velocity) が競争力の源泉
- 韓国が世界の半導体イノベーションの中心地になる

【SEMICON Korea Exhibition】

出展社は主催者発表で約550社、2,400ブース以上、来場者は75,000人(予想含む)と AI 半導体需要の急増を背景にセミコン韓国史上最大の規模となった。

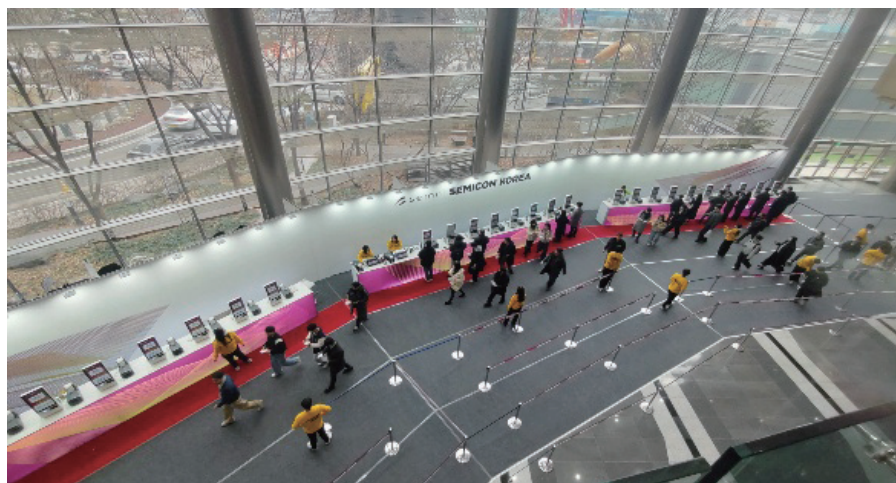
COEX はソウル江南地区に立地し展示会場のほか、ショッピングモールや複数のホテルを含む非常に利便性の高い複合施設で、施設全体の面積は東京ビッグサイトの2倍と広大だが、展示スペースは逆に約3分の1ほどで、年々規模が拡大されるセミコンショーには手狭になってきているように思える。



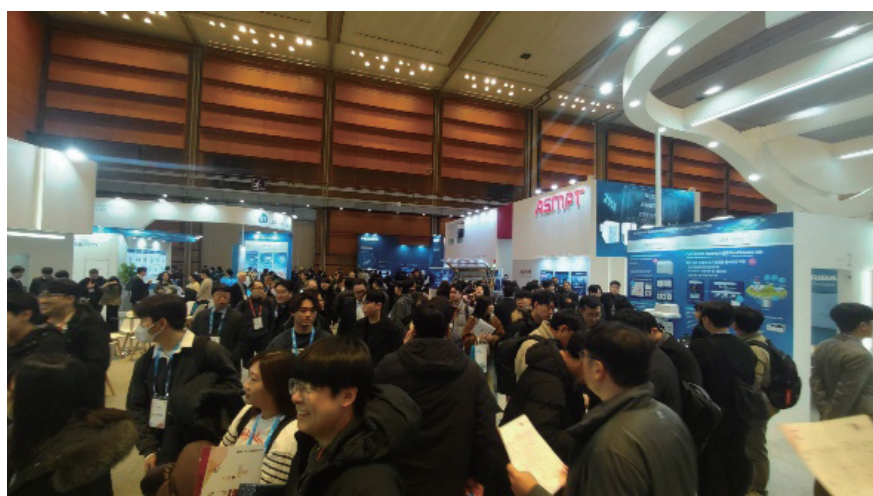
オープニングセレモニー



ASE Tien Wu CEOによる Keynote



効率の良い発券機がずらりと並び、発券渋滞はほぼゼロであった



会場は相変わらずの混雑で活気にあふれる



今年は COEX 内の Westin Hotel のホールまで展示ブースとして利用していた。残念ながらメイン会場からは動線が離れてしまっており人流は減っていたものの、なんとか展示面積を確保しようという主催者の努力が感じられた。

今年のカレンダーでは2月14～18が韓国旧正月（ソルラル）に当たるため、会場の人出は初日と2日目（2月11～12日）が特に多く、3日目は目に見えて少なかった。

展示会場の制約から出展社数などは昨年から微増で大きな変化はなかったものの、会場の雰囲気としては SK Hynix が HBM 特需によって一人勝ち状態だった昨年と比べて、今年はメモリー全体の市況急回復によって Samsung が元気を取り戻している印象を受けた。

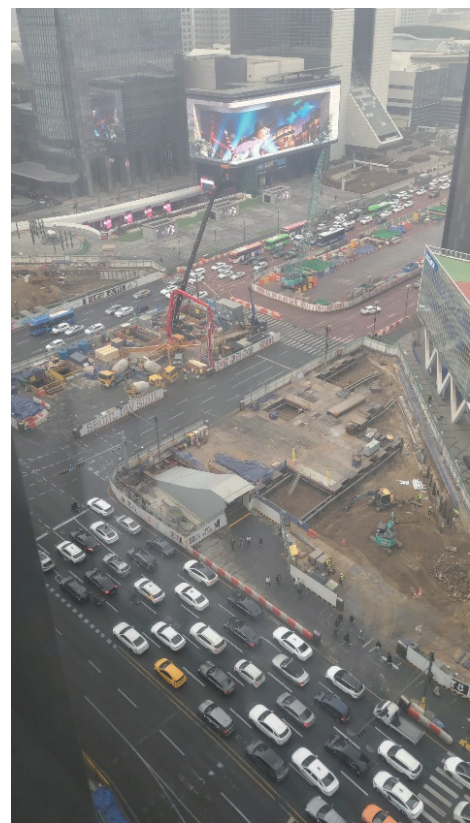
セミコン韓国はいつ来ても活気にあふれている。来年は更にどのように展示場を拡大するのか楽しみでもある。



COEX Mallの象徴 スターフィールドライブラリー



どんなに外が寒くても吸う人は吸う、喫煙風景



ホテルから COEX(写真上) を望む
ソウルはいつも工事中



広大な COEXモールだが案内は充実

末筆ながら特筆したいのは、ブースマップとして紙のブックレットが復活していた。老眼が進行中の筆者にとってスマートフォンでのブース検索は文字が小さくて読めず、会場の全体像がつかみづらいので紙が復活してくれたことは大きな助けとなった。

(SEAJ 国際部長 おたつねかず
太田 恒和)